

氏名	奥 田 陸 夫
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 240 号
学位授与の日付	昭和42年 9 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	変形状股関節症にたいする転子間骨切術の生物学的意義に関する研究
論文審査委員	教授 児 玉 俊 夫 教授 田 中 早 苗 教授 砂 田 輝 武

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

変形性股関節症にたいする 転子間骨切術の意義については、機械的なものと生物学的なものがあり、多くの報告ではその機械的なものについてのみ述べられている。しかし数は少ないが生物学的要素についてもその意義を認める人もあり、私もこの点に興味をもって研究した。即ち、成熟家兎の転子間骨切をしたものを、変形性股関節症に対する転子間骨切術のものと比較検討した。

臨床症例ではすべてのものにおいて疼痛の軽減があり、手術の術式とか角度、転移とは全く相関関係がなく、骨切術それ自身が効果があるようで、成熟家兎における血管の拡大や充血が骨頭、骨中間部に好影響を及ぼしたのではあるまいか。このように、運動制限が幾分強くなること以外はそう短所のない手術であるが、両側性の場合には単に骨切術をしたのみでは反って悪化し、1側に固定術をして支持性を得てから、もう1側に別の手術方法をとる心掛けが必要である。

(昭和42年6月 岡山医学会雑誌 第79巻56号に掲載予定)

論文審査の結果の要旨

本研究は、転子間骨切り術の意義について、成熟家兎を用い、その血行の動態を追求したもので、その生理学的意義の重要性を立証した。また臨床例の検討も加えて、本手術の作用機序の解明に資した価値ある業績であると認める。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。